

議会だより

ここのえ

発行／九重町議会

編集／議会広報特別委員会

平成30年4月17日

〒879-4895 大分県玖珠郡九重町大字後野止8番地の1

☎0973-76-3814 ☎FAX0973-76-3809

✉メールアドレス(議会事務局)gikai@town.kokonoe.lg.jp

傍聴の

鋭き

まなざし

町への想い

No.121 2018.4.17発行

3月定例会

● 新年度予算決定 P.2

● 常任委員会報告 P.6

● 〈特集〉九重町議会がこう変わります P.8

● 一般質問 10名 P.9

● わたしのひとこと P.19

東飯田・北代住宅
南山田・栗原

中原かたり^{さん}
松田 耕治^{さん}

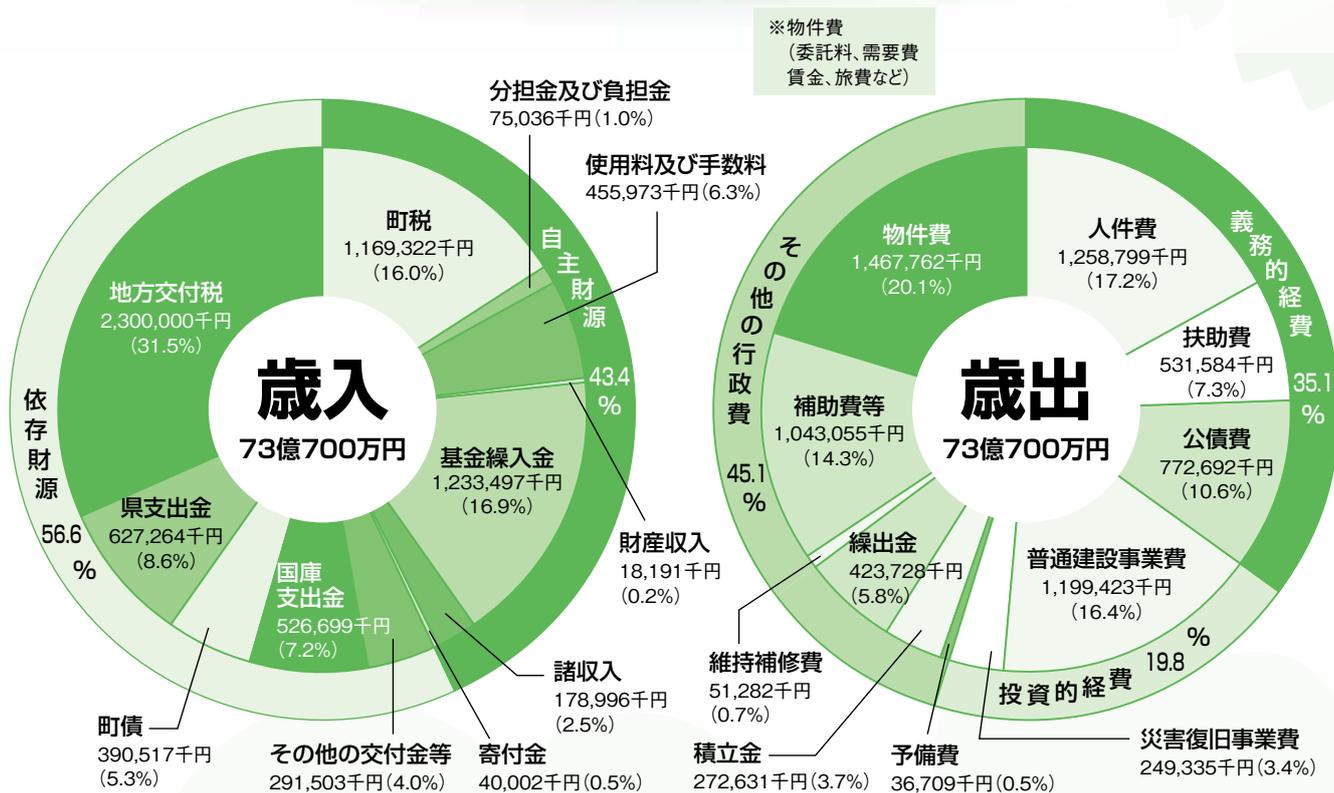
を見据えた新年度予算決定

本定例会は、2月27日から3月20日までの22日間開催されました。
議案31件、発議2件、諮問2件を慎重に審議しました。

平成30年度 一般会計当初予算

73億700万円

〔前年度比1億7,000万円の増(2.4%)〕



特別会計予算総額 33億991万3千円

国民健康保険特別会計	15億1,412万1千円	介護保険特別会計	14億5,077万5千円
水道特別会計	1億971万7千円	介護サービス事業特別会計	2,361万9千円
飯田高原診療所特別会計	6,952万9千円	後期高齢者医療特別会計	1億4,215万2千円

※一般会計当初予算主な事業については広報ここのえを参照してください。

“九重町まちひとしごとと総合戦略”

平成30年度 一般会計当初予算 主な事業



その他 主な新規事業

- ◆野上公民館周辺整備 3,000万円
- ◆田尻集会所設計 598万7千円
- ◆100%出資会社委託 3,405万8千円
- ◆小規模集落対策 408万5千円
- ◆人権意識調査 108万円

- ◆松木ダム小水力発電..... 200万円
- ◆校務サポートスタッフ 119万円
- ◆部活動支援 155万9千円
- ◆中学校国際交流 200万円
- ◆国民文化祭イベント… 1,651万9千円

当初予算質疑

こんな質疑が出ました

歳入について

佐藤明郎議員

Q 町債や基金が歳入の20%超を占め、先々が不安である。基金に対する考え方は。

A 交付税調整などで最終的に充当率は下がるだろう。地方債残高を上回る基金を確保する方針。

A 上げて達成努力をすべき。
A 目標を超過努力をする。

増田裕子議員

Q 買い物弱者支援が薄い。成果が上がる対応をすべき。

A 限界集落を対象にした移動販売に係る費用である。必要額を業者に支払っている。見守り的な役割もある。

有吉富生議員

Q バークマツト活用はどのように進めるか。希望者は入手可能か。

A 推進協議会で今年度の方向性を出す。トマト栽培は実証段階であるため、今後希望者は使えるようにしたい。

佐藤博美議員

Q ふるさと納税の目標額を

A 時差出勤のため時間外になる可能性は低い。職員会議や研修は時間外である。

C 園内会議のあり方を再考することを望む。

麻生良典議員

Q 委託費は14%を占め多

い。抑制する考えや手立ては。パソコンや周辺機器はリースで。
A 電算システム関連等委託が不可欠な業務が多いが安易に委託しない。リースと購入の比較検討を行う。

一般会計予算に対する修正動議 可決(過半数)

上程理由 フッ化物洗口に係る予算118万7千円を減額修正する

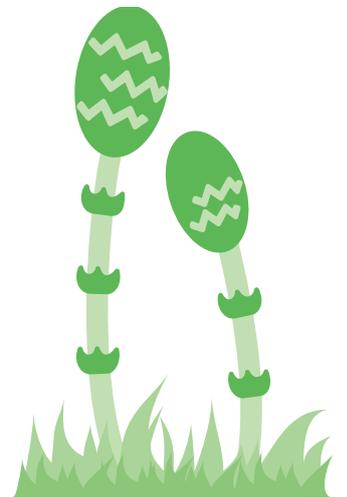
賛成意見

- 関係者への情報提供が足りない。もっと議論を深めて、安全や安心を確保すべきである
- フッ化物洗口の追加実施が虫歯抑制に有効であるかは疑問である
- 人権侵害的側面も考えられ、学校でのフッ化物洗口には慎重であるべきだ

反対意見

- 保護者の約60%がフッ化物洗口を希望していることを重視する。学校で子どもが洗口するか否かは、その保護者が決めることになっている
- 安全や安心を確保すべきとの提案趣旨だがその内容が不明であり、趣旨に賛同できない
- 昨年度の施政方針でもフッ化物洗口は示されており、議会内で多角的に協議すべきであった

議員名(議席順)	賛否
藤原 三治	賛成
麻生 良典	反対
佐藤 太治	賛成
増田 裕子	賛成
有吉 富生	反対
土井眞一郎	反対
佐藤 明郎	反対
大津留敏加	反対
佐藤 博美	賛成
坂本 憲治	賛成
菅原 美好	賛成
井上 里子	反対
小川 克巳	賛成



付託外案件 いずれも承認

- 九重町学校教育振興基金条例の制定
学校教育振興、児童生徒の教育活動を奨励し振興を図るため

- 松木ダム小水力発電施設基金条例の制定
発電施設の運営、土地改良施設の維持管理のため

人事案件



日野 由紀子さん
野上 野矢



麻生 夕子さん
東飯田 右田

人権擁護委員の推薦につき
意見を求められ同意



小野 日隆さん
南山田 栗野

九重町教育委員の
任命に同意



篠原 信義さん
野上 南区

固定資産評価審査委員会
委員の選任に同意



時松 賢一郎さん
飯田 田野

副町長の選任に同意

1月臨時議会
いずれも
可決

- ▶ 工事請負契約の締結 野上公民館新築工事(建築主体)
総額1億1,535万4,800円 (株)トップインターナショナル

- ▶ 補正予算
歳入歳出に1,800万円追加し、総額73億8,529万2千円とする

2月臨時議会
いずれも
承認

- ▶ 専決処分(一般会計及び水道特別会計の補正)
 - ・大雪及び寒波に伴い、融雪剤の散布量が大幅に増える状況
 - ・簡易水道施設(飯田水系)の排水施設が故障し修繕を行う

審査報告

議案
6件

可決された案件

職員の給与に関する条例の一部改正について

自宅の住居手当を廃止します。廃止に伴う緩和措置として5年間の経過措置を設けます。

職員の給与の特例に関する条例の全部改正について

ラスパイレース指数の平準化にむけて、給料を平成30年4月1日から平成31年3月31日までの間3級から7級まで級別に0・5%から5・0%の減額をおこないます。

各種委員会の委員等の報酬及び費用弁償条例の一部改正について

九重町空家等対策協議

九重町道路占用及び占用料徴収に関する条例の一部改正について

平成28年度の固定資産税評価額の評価替え及び賃金水準調査の結果、九州ブロックの道路占用料について統一単価が作成されたことにより改正します。

道路認定について

県道飯田高原中村線（河内工区）のバイパス工事完了に伴う移管措置で、隣接地に町の水道施設があることから、旧県道430メートルの区間を新規認定します。

発議2件

九重町議会議員の定数を定める条例の一部改正

改正理由

議員定数の適正化を図ります。

改正事項

- 1・九重町議会議員の定数を13人から12人に改めます。
- 2・改正された議員定数は、平成31年1月1日から施行し、施行日以降初めて公示される一般選挙から適用されます。

九重町議会傍聴規則の一部改正について

提案理由

現状に即した規則内容の適正化を図ります。

具体的内容

- ※一般席の傍聴人定数を50人から30人とします。
- ※傍聴人受付簿を廃止し傍聴席への入場を先着順とします。
- ※傍聴人の守るべき事項として携帯電話・スマートフォン・タブレット端末等による通話規制をおこないます。



まだまだ生々しい崩落現場

議会

カレンダー

1月～3月

1月

- 8日 九重町消防団 特別点検
- 15・26日 地方議員研究会
- 16日 夢大吊橋 安全祈願祭
- 19日 第1回臨時会
- 28日 新春チャリティー
- 30日 防衛議員連盟総会

審査報告

議案
7件

可決された案件

九重町後期高齢者医療に関する条例の一部改正について

高齢者の医療に関する法律の改正に伴う改定です。

国民健康保険条例の一部改正について

国保の広域化により、平成30年度から県が責任主体となります。市町村間の給付水準などを統一化していくものです。葬祭費3万円が2万円になります。

九重町介護保険条例の一部改正について

第7期介護保険事業計画及び高齢者福祉計画（平成

30～32年度）の策定により、保険料の改定を行います。

九重町指定介護予防支援の事業に係る申請者の要件並びに人員及び運営に関する基準等を定める条例等の一部改正について

- ・共生型サービスに係る基準の整備
- ・介護医療院の創設に伴う改正
- ・認知症の定義に係る改正
- ・サテライト型指定看護小規模多機能居宅介護事業所の創設による基準の追加等の改定を行います。

九重町指定居宅介護支援の事業に係る申請者の要件並びに人員及び運営に関する基準等を定める条例の制定について

指定権限が県から町に移



南山田ふれあい交流センター

ふれあい交流センターの設置及び管理に関する条例の一部改正について

計画的に整備されるふれあい交流センターの使用料に関して、より使いやすい形に整備するものです。具体的には、これまで午前・午後等の時間区分を30分毎にする等です。

行されるための改定です。

九重町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部改正について

これまで認定の際に支給決定通知書と認定証を交付していましたが、支給認定証の交付は任意化されたことに伴う改正です。

亀鶴苑の施設運営の安定のための支援を求める陳情書

継続審査となっております上記陳情は、平成30年2月21日、陳情者より取り下げの申し出があり、今3月議会初日(2/27)本会議で許可されました。

2月

2日 地方議員研究会
7日 教育民生観光常任委員会

13日 第2回臨時会

14日 女性会議セミナー

22日 議会運営委員会

27日 第1回定例会開会

3月

2日 緑陽中学校卒業式

3日 福祉と健康と社会教育を考える集い

11日 身体障害者福祉協会設立60周年記念大会

16日 こども園卒園式

20日 第1回定例会閉会

22・23日 各地区小学校卒業式



議員定数を13名から12名に改正

九重町議会がこう変わります

●改正に至った経緯

平成19年に議員定数が13名に改正されました。この10年で町の人口は10,833人から9,251人に減少し、今後もこの傾向が続くと予測されています。

この間、当議会では議員定数に関し、随時協議を行ってきました。昨年は、適正な議員定数を求める幾つかの方法を検証し、委員会審議を重視する方法を採用しました。

九重町議員定数の流れ

改選年	定数	人口(目安)
S34年	22	21,100
54年	20	14,400
62年	18	13,600
H15年	16	11,800
17年～18年	平成の大合併	(九重町は単独の道を選択)
19年	13	11,200
31年	12	(1万人を割込む)

採用しなかった方法

人口に比例 人口に応じて定数が増減することは分かりやすいが、何人の人口に1人の議員が適切なのか、数値を決めることが困難。

類似団体内比較* 他の団体との比較では、比較対照する団体が現在の定数に至った背景や経緯が分からないため、単純な比較が困難であり、加えて人口と定数との間には関係性が乏しい。

自治協議会単位 地区ごとに定数を決めることは、全町で1区に至った当町の歴史に逆行する。地区人口何人に1人の議員が適切かを定めることが困難。

採用した方法

委員会重視 一般的に何らかの会議で十分な議論を効率的に行うためには6～8人の構成員が適切だと言われている。九重町議会では、十分に審議を行い妥当な結論を出すには1つの常任委員会で最低6人を確保すること、並びに、行政が行う膨大な事業を精査し検証するには2つの常任委員会を設置することが適切であると考えた。

採用した委員会審議を重視する方法によれば、現定数の13名も許容範囲ですが、現定数に改正した後に約1,600人も人口が減少しており、1名減の12名が適正な議員数であると結論しました。

来年(平成31年)は改選の年であり、定数改正が適切な時期と判断し、先の定例会で議案上程し決定しました。

*類似団体：市町村を人口規模や産業構造で分類。九重町は、人口5,001～10,000人で、2次と3次産業が80%未満の類似団体Ⅱ-0(107町村)に属す。



熱心に傍聴される方々

一方で、守っていただく事項として、携帯電話などによる通話規制なども設けます。

- ・受付名簿を廃止
 - ・未成年者も傍聴可能に
 - ・持込物の規制を緩和
- などです。

主な内容

皆さんの傍聴のため、議場に入る際に、様々な規則がありますが、時代に即した内容にするため、より多くの方が傍聴しやすくするため、規則を改正しました。

傍聴しやすいように
規則を和らげました。

町政を質す 一般質問

10名の議員が質問

菅原
美好



台湾の中学との国際交流 どのように進めるのか

..... グローバルな人材育成のため、積極的に

● 教育行政基本方針

菅原 国際交流で台湾の中学校とこのえ緑陽中学校との姉妹校の提携に取り組み具体的な内容、今後の方向性は。将来、このえ緑陽中学生の修学旅行は考えられないか。

教育長 このえ緑陽中学校

の生徒が直接交流することによって、生きた外国語、特に英語に触れて、異文化を体感することで海外に興味を持ち、更にグローバルな手腕を持った人材育成のため、積極的にこの事業を進めたい。修学旅行は、将来の課題として検討する。

● 犯罪被害者の救済

菅原 人権擁護で犯罪被害者等に見舞金を支給する制度は、国東市が条例を制定している。本町はどうか。

町長 県の犯罪被害者支援条例に基づいて見舞金を支払う。経済的援助、相談情報の提供、日常生活の支援、安全確保、居住の安定、雇用の安定等、いろんな分野で検討を行う。

● 臨時職員の待遇改善

菅原 本町の一般職員、臨時職員の違いは。有給休暇はある程度あるが、期末手当等の支払いは、臨時職員にない。処遇改善を考えてないか。

町長 今、国において、臨時職員の任用のあり方等が問題になっている。地方公務員法及び、地方自治法の一部改正の法律に基づいて、平成32年度より、期末手当等の支給が可能になるよう処遇改善等を図っていきたい。



緑陽中と姉妹校となる台湾の中学校

住民の地域での生活 どう守っていくのか

…………… 行政区地区協議会、行政が支えあって



佐藤 明郎

● 地区協議会の目的 そして行政の役割

佐藤 地域での生活を守るため、地区協議会の必要性が強く打ち出されている。具体的な設置目的は何か。

町長 様々な活動の中、行政区単位、行政区を越えた活動、地区全体のものも含めて協議いただき、できない部分については、行政もいっしょになって、支援していきたい。

佐藤 少子高齢化により、



地蔵様を守る小さな集落

高齢者支援、集落活動の維持と、切迫した課題が山積している。行政と協議会の関わりは。

町長 10年後には行政区の作業などに70%以上が厳しいと回答している。

高齢者支援としても、社協、行政、そして地区協議会が一緒になって、何かできないのか、まさに今、協議会に提案しているところである。

● 障がい者、希望の光 いつ輝くのか

佐藤 障がい者の「親亡き後」など、絶対必要と思われる「グループホーム」の計画が遅れているが現状は。

町長 町でなく事業者が設置する施設だが、一般質問も受け、施政方針で早期整備を示した。

町内で支援が必要な方は町外の施設を利用している中、事業所より、町内に開設したいとの申し出がある。

り、庁内、地域住民との意見交換も行っている。しかし予定地の既存建物の解体工事が決まっておらず、工期については未定である。

身障協、60周年 記念大会での声

佐藤 自ら、障がい者であることを、公言できない。この声は、貴重な意味があると思う。今年をはじめ、障がい者に対する理解を深める啓発が必要だと示した。その意図は。

町長 アンケートの結果、差別や配慮のなさを感じた方が多く、特に若い人は7割を越えている。

佐藤 誰もが自分らしく生きられるためには、周りの理解が不可欠であり、行政として、その取り組みが不足していたのではないか。

町長 取組みが遅れていた部分もあり、しっかりと認識し、全分野の啓発を図り、住みよい町にしていきたい。



60周年をむかえた九重町の身障協の大会

● 人権意識アンケート 意義あるものに

佐藤 先の一般質問で、部落差別に関する意識調査を求めたが、どのように進めるのか。

町長 平成17年以降、行っていない。

平成30年度に意識調査を行い、どこに課題があるのか把握し、今後活かせるものにした。

その他に、「日田支援学校の分校を玖珠に設置」についても質問しました。

井上 里子



町100%出資株式会社 4月業務開始に向けての準備状況は

…… …… 遅れもあるが、業務開始までには準備する

井上 正社員2名の採用は、かなり遅れているのではないかと。また、臨時社員11名の採用はどうなっているか。

町長 さまざまな要因で若干遅れている。社員2名は3月20日付で採用する。臨時社員は、今年度（町の委託等によって）実際にその業務を行っている方と面接し、10名採用した。

井上 会社の業務内容は、

①大吊橋受付業務、②泉水グリーンパーク受付業務、③文化センター夜間受付業務、④町道維持業務、⑤人材派遣業務、⑥農産物集荷販売業務となっているが、この内、①②③④は業務開始のための準備はほとんど必要がないと思われる。

⑤人材派遣業務と⑥農産物集荷販売業務は、町がこれまで実施しなかった業務を会社が始めることになるので、準備がいろいろ必要と思われる。

まず、人材登録者と野菜出荷者募集のチラシが、20日余り前に全戸に配布され

た。現在までのそれぞれの申し込み状況は。

町長 人材登録の申し込み者は13名、野菜出荷希望者は15名である。

井上 チラシ配布をはじめ、準備開始が遅すぎるのではないかと。特に、人材派遣業務等については、その準備のために、昨年9月補正で300万円の補助金が決まっている。4月業務開始から町民の申し込みに対応できるように準備すべきである。

町長 予定より遅れている。それによって、次のいろいろなステップを踏んでいくことができにくくなってはならない。4月スタートができるよう努力する。

井上 会社の事務所は現在庁舎内企画調整課内に置かれているが、早期に庁舎外設置が必要ではないか。

町長 なるべく早く庁舎外に設置する。

井上 業務開始までの準備状況、町民が利用する業務の利用方法、業務開始後の営業状況等、町民に周知を。

健康寿命 さらに伸ばす 取り組みを

井上 施政方針に「健康寿命延伸を目標に、健康事業に取り組み」とある。重点的に取り組むことは。

町長 主に青壮年期を対象にした生活習慣病の予防と、高齢期を対象にした介護予防事業に取り組む。

井上 県では、健康寿命日本一を目指して運動を推進している。その取り組みの一つとして、「健康寿命を伸ばす三つの鍵」の実践を奨励している。三つの鍵は、一日に「減塩マイナス3g」「野菜350g」「歩数プラス1、500歩」である。本町もこの取り組みに力を入れるとよいのではないかと。

町長 県が三つの鍵を示した根拠は、減塩、野菜摂取量は国が定める目標値を指しているし、歩数1、500歩増は生活習慣病及び死亡リスクの約2%減少に相当している。県といっしょに取り組んでいきたい。

ウォーキングコースの 整備、早々に検討を

井上 私は一昨年12月定例会での一般質問で、安全で歩きやすいウォーキングコース整備の検討を要望した。このコース整備は、高齢になって足元が不安定になつた人や病氣予防、病後のリハビリ等のために歩こうとする人が、安全に歩きやすいようにという福祉の充実が目的である。検討結果がまだ出されていない。こういう目的のコース整備が必要かどうかを、まず、早々に検討してもらいたい。

町長 昨年12月に課長会で話を出している。質問の意味は理解しているので、できるだけ早く答を出したい。



安全で歩きやすい
ウォーキングコース(玖珠町)

10年先のこのえ町は

…………… 総合計画を基本にまちづくりを進める



坂本 憲治

● 対話重視の町づくり、 得たものは何か

町長 対話は町づくりの原点、町全体の課題を、如何に施策に反映させるか考えている。

坂本 職員には10年先を考えた施策を指示しているが町長の考えは。

町長 担い手、定住等厳しくなる。今後、まち総合サービスの会社等で人口減少に歯止めをかけた。

● 各事業の10年後

農業

坂本 各課として10年後の町づくりは。

町長 農家戸数は減少したが、専業農家は増えていく。担い手不足で、特に中山間地の放棄地は増加している。今後高収益作物等を考える必要がある。

観光

坂本 観光はインバウンド等で賑わっているが。

町長 過去の日本と同じと見ている。

坂本 将来を見すえた観光



10年後の担い手になってほしい子どもたち

地づくりが必要では。
町長 環境整備は大切だ。又、今後宿泊者等をデータ化する予定である。

企画

坂本 町の将来は企画であるが、企画課としての考えは。

町長 人口減少は全国的現象。自然増より、社会増を旨ざすため、農業等に的を絞り、九重町に安心して住めるようにしたい。

又行政区の活き返りや協働の町づくりである。

健康管理

坂本 安心して住むには、健康と福祉である。今後、介護の必要な方は増加す

るが対策は。

町長 団塊の世代が75才になる頃には、財源不足や人材不足等により充分な支援がむつかしくなる。健康寿命を延ばす等、住民と一緒に考えていきたい。

住宅政策

坂本 人口減時代の住宅政策は。子育て、買い物、病院等、年代に合った政策が必要では。

町長 定住促進の為に住宅を建てて来た。今後は予防や保全を主眼として考えたい。

教育

坂本 町の担い手は教育の力が大である。今後の方針は。地元に残る人には奨学金を支給しては。

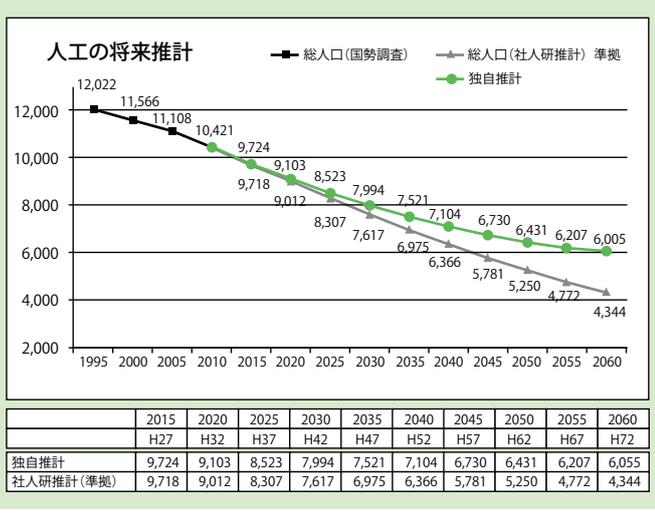
教育長 色々な方法で取り組んでいる。中学生の町づくり提案やふるさと学等町という視点を重視して進める。奨学金は条件内であれば検討対象としたい。

藤原
三治



地域おこし協力隊を活性化すべき

..... 先進地域を参考に進める



● 人口問題

藤原 人口減少が進んでおり対策が不十分ではないか。

町長 有効な施策もあるが、一万人死守はできていない。町が元気で魅力的であれば戻って来てくれるだろう。10年先を見据えて行動する。

藤原 元気や魅力に乏しい。こどもが将来を担うため、教育や育てやすい環境

づくりが重要である。

高校生までの医療費の無償化は有効ではないか。

町長 当町の子育て関連の助成は厚い。町外の方に住んでもらうためには、安定した生活環境も含めて総合的に考える。社会保障費が増大する中、無償化は困難である。

藤原 住民サービスの面から、窓口受付時間の延長やコンビニでの受け取りを検討すべき。

町長 過去、時間外受付をしたが利用者が大変少なかった。コンビニ活用は検討段階であり、数百万円の維持費が必要となる。

藤原 他自治体の各種無償化策を参考に前向きに進めることを望む。

● 地域おこし協力隊

藤原 地域おこし協力隊が活躍・定着するための意欲やサポートが執行部に欠けている。竹田市は畜産ヘルパーや通訳等幾つかの目的別に隊員を募り、活気ある多くの隊員が定着している。各種研修はあるし資格取得支援もある。

町長 大いに隊員を迎えた。最大3年間住み、それ以降は地域に定住することを前提に、生活費や保険費等を補償している。当町は地区協議会の要望に沿って募集している。先進自治体

を参考にする。

● 高齢者の免許返納

藤原 高齢者免許返納の状況や返納支援は。

町長 この三年間は毎年、30名前後から返納があった。高齢者事故はほとんどなく、玖珠署管内は535日連続して死亡事故はない。返納を促進するような公共交通の整備を図っている。

藤原 タクシー割引券を発行できないか。
町長 老人会の意見は承知している。より良い公共交通システムを作り上げたい。



地域おこし協力隊の支援が求められる野倉地区みつまたの里

社会情勢を鑑み 基本計画期間は5年が適切

…基本構想は10年とするが、第5次に向け参考とする



麻生 良典

● 総合計画

麻生 人口や地域経済の好転が困難な中、総合計画のあり方をどのように考えているか。変化に柔軟に対応するには、基本計画を5年間としては。

町長 基本構想は10年先を見据えた将来像と捉えており、基本計画は中間総括をして、次の5年間でやり遂げることにしている。

麻生 基本施策の約6割に課題や問題点がある。今後

注力すべき施策は何か。達成への道筋を描いているか。

町長 人口減少、少子高齢化対策、社会保障、施設の長寿命化である。達成には施策ごとにPDCAを確立する。

麻生 昨年、事業効果の検証については目標設定後にを行うとの回答であり進捗は。

町長 その後、コンサルタントと相談した結果、研修を含めて多くの作業が必要で完了に2年近くかかることが分かった。職員研修予算を計上しており前に進める。

麻生 第4次総合計画策定時にやるべきことを6年も経過した時点から実施することは大いに反省すべきだ。

● 町施政方針

麻生 基本計画や前年度実績に基づき構築した方針は何か。

町長 まち・ひと・しごとでは住民企画提案制度。観光

振興では地域経営との考えに立つこと(DMO)。農業ではファミリーズスクールでの品目を増やす。福祉では健康寿命を延ばす。教育では子どもたちが将来的に町で活躍する姿を明確に描きたい。

麻生 住民企画提案制度の目的と目標は。我々住民への動機づけは。施策化までの過程や実行段階で住民はどの程度関与できるか。

町長 少子高齢化対策、防災や集落維持をテーマに考えている。住民の方が話し合う場であり、役場が地元に向いて説明する。まちづくり会議と議論を進める。町が予算化し、住民の方に施策展開してほしい。

麻生 ジェネリック普及の具体策は。県では後発医



薬局や病院で相談しましょう

薬品安心安全促進協議会を設置し、老人クラブや婦人団体の代表者が委員である。

町長 ジェネリック使用率は56%で70%が目標である。後発医薬品差額通知を年3回送付しており継続する。ジェネリックへの切り替えを促すために、玖珠郡医師会に要望する。特定検査や説明会で切り替え希望カードやチラシを配布する。



野倉みつまたの里—観光客UP

佐藤 太治



「道の駅構想」は町民の「参画」意識から…

…… 「箱」からでなく「中身」からだと思っている

● 現在の町財政について

佐藤 財政・財務・資産の運用はどうなっているか。

町長 財務諸表の数値により説明する。基金総額は（貯金）68億6、667万円です。地方債（借金）は67億1、251万円で、1億5、416万円、基金のほうが多いという状況にあり財政健全化が維持出来ていない。一方で地方の基金残高が増加傾向にあり、財政資金の効率的配分が指摘されており、国の動向を注視していかなければならない。資産運用については、九重町公金運用基準委員会において、安全性を第一に考え公金運用の調査研究を行っている。

● 町有財産の運用について

佐藤 町有林の面積と運用はどうなっているか。

町長 面積は342.5ヘクタールで杉・松・櫟を主に植栽しており、管理は玖

珠郡森林組合に委託し年2回巡視をし育成状況、盗伐の有無の確認を行っている。

巡視をもとに森林施業計画3年を作成し、計画に基づいて伐採を行っている。



手入れ前の森林

● 県道40号線の工事の状況について

佐藤 飯田高原中村線の災害復旧工事の終了予定は、今後工事の予定はあるか。

また、大型車は通行できるか。

町長 現在、発注分の町田河内治山工事は、繰越し事業として、7月下旬の完成を目指している。緊急治山工事は6月中旬の完成を目指している。今後は玖珠土木事務所において災害復旧工事として、擁護・落石防護柵の工事予定がある。西部振興局では、山腹箇所ので災害復旧工事等が未執行であり、今後2年間はかかるとの情報である。大型車の通行は可能という解釈をしている。ただ、大型観光バスについては、過去、観光協会で渋滞緩和策として、町道の四季彩ロードの通行を運行会社にお問い合わせした経緯がある。また、マイクローバスは通行はできると判断している。

● 道の駅構想について

佐藤 まず、道の駅をつくるかつからないか、規模・場所・内容等を町民と対話

や協議を行い、町民の「参画」から始めるがよいのではないか。

町長 協働の町づくりという意味で、町民の方が色々な形で議論するということは大変いいことだと思う。何かをやるときは「箱」からではなく、「中身」から考えていかなければと思っています。



コンパクトな道の駅

火山噴火の防災計画は どうなっているか

..... 平成30年度内に火山避難計画策定



大津留 敏加



火山噴火が心配される硫黄山

くじゅう連山の 火山の噴火について

大津留 町内では平成7年にくじゅう連山の硫黄山が水蒸気噴火した。火山噴火の防災はどうか。

町長 九重火山防災協議会を設立し、平成29年度に住民・登山者・観光客の安全確保を目的に九重火山避難計画を策定中で、平成30年度内に完成する。

外国人にわかる 道路標識の設置を

大津留 平成28年の災害（熊本・大分地震）に伴う県道飯田高原中村線の復旧工事区間を通行する外国人運転者（レンタカー）にわかる道路標識の設置はできないか。

町長 外国人のレンタカー等の工事区間通行で、一旦停車の信号無視等は聞き及んでいゝる。関係機関（林野庁・大分県・当町）部署会議で議題として検討してもらおう。

農業情勢と 今後について

九重町米の作付け面積の推移面積 (ha)

	平成22年	平成25年	平成29年
総水田面積	1,300	1,298	1,286
主食用米	797	785	707
WCS用稲、飼料用米	15	34	70
園芸品目	116	110	93
飼料作物	127	135	138
その他、自己保全・山林	245	232	276

九重町繁殖牛戸数・飼養頭数推移

	平成20年	平成25年	平成30年
東飯田 戸数	60	36	21
飼養頭数	232	128	85
野上 戸数	36	21	15
飼養頭数	385	261	209
飯田 戸数	59	46	41
飼養頭数	1,077	944	951
南山田 戸数	62	56	33
飼養頭数	559	556	453
戸数計	217	159	110
頭数計	2,253	1,889	1,698

*平成30年は2月1日現在

大津留 町内の水田面積と繁殖肉用牛の農家戸数と飼養頭数の推移について。

町長 水田面積は、平成22年1、300ha（主食用797ha、WCS・飼料米15ha、園芸品目等116ha）。平成29年1、286ha（主食用707ha、WCS・飼料米70ha、園芸品目等93ha）。

肉用牛と繁殖牛は、平成20年、農家戸数217戸・飼養頭数2、253頭。平成30年は2月1日現在、農家戸数110戸・飼養頭数1、698頭である。

大津留 農家戸数、飼養頭数の分析について。

町長 繁殖農家の高齢化、後継者の不在により廃業する農家の歯止めがかからない。小規模農家には複合経営、中・大規模農家には、国・県の補助事業の有効活用を進める。

大津留 商工・観光・農業の農産物の地産地消の取組みと農産物の販売戦略について。

町長 農産物の付加価値を付け、ブランド化を進め販路との両方が成り立つ販売戦略に取り組み。また、台湾の総領事の表敬訪問があり、豊後牛が売れる話を聞き、販売戦略の中に取り込んでいきたい

佐藤 博美



九重町の拠点づくり、町民が集える「道の駅」を

… 夢を実現するための方策を住民の皆さんと一緒に

佐藤 特産品を作っても、農産物を作っても、町内で販売する所がない、という声が多い。今後数年の内には、九重町に商店が無くなるのではないかと心配する声も聞く。買物弱者対策の移動販売も、商店がなくなればできない。

商店もなくなった町に魅力があるのか？活力が生まれるのか？。

今こそ、町の中心となる拠点を作り、町民が集える場所、観光も含めた、九重町の発信基地としての「道の駅」を考える時である。

町民が町の将来に夢を持つための施策を、町100%出資の会社を活用しながら、取り組んでは？

町長 町づくりに夢を持つ事は大切であると認識している。色んな提案もいただきながら、夢を実現するための方策は、町としても考えなければとされている。住民の皆さんと一緒に挑戦し、達成していきたい。100%出資の会社はまず、基礎をしつかり固め

た上で、その次のチャレンジとして、3年後に取り組めるように、努力していきたい。



道の駅くす

ふるさと納税、やる気があるのか？

佐藤 国東市は昨年が24億、今年は30億に達したと聞く。九重町は取り組みが遅れた事もあり、県下最低の35万円から順次伸ばしてきたが、昨年の10月から総務省の通達もあり、返礼品の割合を40%から30%に下げた事により、その後半減し、目標額5千万円に届かず4千万円に終わった。

30年度は目標に届かなかった4千万円で予算を組んでい

る。今年できなかったからと目標を下げるのではなく、来年は1億を目指すぞ、この姿勢が大事なのではないか？

前向きに一步でも二歩でも進めるよう頑張る

町長 今回の5千万から4千万に下げたという、姿勢の問題という事なので、町としても真剣にもう一度考え直さなければならぬと思っている。

前向きに一步でも、二歩でも進める様に頑張りたい。



ふるさと納税パンフレット

職員採用、町内者の割合は？町に住民票のない職員の数は？

一次試験は別にして、二次、三次試験では町内在住の人を、との思いはあるのか。又、職員は役場の中だけの仕事だけでなく、住民とのパイプ役でもある。町内に住民票のない職員の人数と、割合は？

採用者7名の内、町内者は1名、町外から来ている職員は31名、20%

町長 町内者を多く採用したいという思いはあるが、選考採用なので、今年は7名の採用の内、町内者は1名だけである。

又、役場職員151名の内、町外から来ている人が31名、約20%が町外から勤務している。採用試験の時は町内に住む様をお願いしているが、町内にアパートや土地がなく、玖珠町に住まざるを得ない。住宅、土地問題は早急に検討していきたい。

佐藤 今年の職員採用で町内者の割合と、採用の中で、

学校では、薬剤を使わない保健指導にとどめるべきでは

…………… 歯ぶらし、食育に加えて取り組みたい



増田 裕子

- ①薬剤の安全性・有効性
 - ②事故発生時の対応と責任
 - ③人権に通じる点の配慮
- しっかりと検討した上で是非を決める判断を！

増田 12月以降の検討状況は。

教育長 12月に保護者の意識調査を実施。1月に各小学校を回り、町の基本的なスタンスやこれまでの取り組み状況等説明し、意見聴取を行った。2月第5回目の検討委員会でマニュアル作成中である。最終的には学校現場の意見を聞いて完成させたい。

増田 予算が計上されているが、明細と実施計画は。

教育長 各小学校で週一回。洗口する一日前に業者から作られた洗口液が届く。鍵付きの専用冷蔵庫で保管し、洗口当日専用ボトルを各教室へ運ぶ。紙コップに10mlずつ子どもたちに

配布し、30秒〜1分間のぶくぶくうがいをする。紙コップに吐き出し、ティッシュに浸みこませてごみ袋へ廃棄。予算内訳は、専用ボトルや保冷用バッグ、紙コップやティッシュ等の消耗品費28万6千円、冷蔵庫18万円、業者への委託費72万1千円。

● **そこまでして実施する効果はいかほどか。**
日本における施設でのフッ化物洗口実態調査のデータからは、むし歯本数と実施率の関連性は読み取りにくい。

増田 子どもの養育は学校に任せるものじゃなく、保護者がきちんと責任を持つもの。もつとじっくり論議が必要である。教育委員会の判断基準はどこにあるのか。

教育長 幼少期における健康維持・増進という大きな目標を達成するための一つの手段として考えている。学校保健安全法に則って行

う。この取り組みを通して、歯の健康に対する意識の高揚を図りたい。



みんなで歯みがきに取り組む

● **町100%出資株式会社について、進捗状況等は**

増田 今まで町が臨時職等として雇用していた10名を会社が雇用することで委託料はプラス450万円ほど出費になる。ほかにインターネットや人材派遣：会社の将来に不安が大きい。シルバー人材は玖珠町で年間7百万円ほど赤字運営だ。設立段階から民間の意

見も反映する要望が多かったが、どうなっているか。

町長 まずは制度を確立させてから、人材派遣などを行う。会社の基盤が整ってから、民間の方も入ってもいい議論していきたい。

増田 会社がどうなっているのか、よくわからないという声が多い。現段階の説明に合わせて、町民からの提案や意見を聞くような説明会を設けてはどうか。また将来へ向けたまちの核づくり構想はどうか。

町長 今回10名から一般質問、多くの意見をもらった。これから先を見すえ、次の世代にしっかりと渡せるようなまちづくりをしたい。皆さんとしっかり議論をしながら進めていく。

その他町臨時職員等の待遇について、見直しを要請しました

あたしのひとこと

人とのつながりを

たいせつに

東飯田 北代住宅

中原かたりさん



「つなぐプロジェクト」

3年前に九重町で暮らし始め、慣れない環境、子育てと仕事の両立に悩む毎日でした。そんな時、社会福祉協議会主催の「ささえあい養成講座」を受講し、地域の事を考えるようになりました。少子高齢化・核家族・保育園、中学校統廃合、インターネットの普及、IT時代へ変化し暮らしは便利になり、人と関わらなくても生活できる時代へと変化しています。しかし、便利になった時代でも、暮らしづらさ寂しさを抱えている人がいるとすれば、それは寂し

い事だなど思います。子育てにおいても、小さい頃から地域で活動することで〈子どもの心の根っこの部分〉に家族や地域に大切にされたという想いがインストールされていくと信じています。人とのつながりは煩わしい事もありますが、それ以上に支えられている部分も多いと感じます。

これからも、顔の見えるつながりを大切に〈地域をつなぐ・人をつなぐ・世代をつなぐ・未来へつなぐ〉をスローガンに地域が元気になるよう活動を続けます。毎月第3日曜日（4月は第4日曜日に変更）10時半〜、下旦クラブで行っています。とりあえず、来てみて、心地よさを感じてください。

※つなぐプロジェクトでは地域の声が形になるよう、色々な角度から一緒に活動をしてくれるメンバーを募集しています。

夢ある町

南山田 栗原

松田 耕治さん



2009年12月九重町役場に移住届を提出したのがまだ最近の事のように感じている。九重町に根をおろし、新規



地域の各世代が集うあったかい居場所

就農、法人化して現在2期目を迎えようとしている。子供は二人生まれ、春には長女が小学生になろうとしている。

無我夢中でチャレンジしていたら8年も経過しており、そしてこの町でチャレンジしたい事がまだまだいっぱいある。この事実こそが九重町の魅力だと思う。

『夢中でチャレンジできる環境』『チャレンジできる伸びしろ』

志、いまだ道半ばではあるが、この町でチャレンジできる事に心から感謝し我が道を行きたいと思っています。



パークマットを使ったトマト栽培

ぜひ傍聴へどうぞ 次回は6月です



南山田串野・梶屋
お宝ウォーキング



第36回
飯田高原文化祭



このえ お宝ウォーキング 第9便



春をよぶ恒例行事
河川の火入れ(書曲地区)



「私も見てネ」
野上地区おひなまつり

議会だよりについてご意見をお聞かせください。【議会事務局：76-3814】

編集後記

新年度の方針・予算を決める3月議会が終了しました。一般質問10名、修正動議1件。議員定数削減や傍聴規則改正の議員発議もあり、熱い論議が繰り広げられました。

10年20年後の九重町を見すえた取り組みを、行政と議会が厳しくも一丸となって取り組む必要を感じています。

小さいからこそできるまちづくり！皆さんの声ができるだけ多く聞き取り、反映していきたいと考えます。おでかけ議会のリクエストもどんどんお寄せください。

春は出会いと別れの季節。今を大切に、出合いを大切にしていきたいと、歳とともに強く思うこの頃です。

増田 裕子



- ・ 広報委員長 佐藤 明郎
- ・ 副委員長 麻生 良典
- ・ 委員 佐藤 博美
- ・ 委員 土井 眞一郎
- ・ 委員 増田 裕子
- ・ 委員 佐藤 太治